平成18年7月豪雨災害報告／災害発生時の対応について

「H18年神戸川豪雨 災害発生時の私の1日」

㈱岩崎建設 岩﨑 哲也

平成18年7月18～19日にかけての島根県出雲地域を襲った豪雨災害は、今思い出しても恐ろしいものでした。私が住んでいる佐田町も神戸川水系の増水により、護岸や護岸に接する耕地が壊滅的な災害に見舞われ、尊い生命が失われた最悪の結果となってしまいました。

私は地元消防団の一員であり、18日の夜から河川増水対策や住民非難などの支援活動に参加していましたが、翌朝からは建設業者として災害応急対応に当たりました。

今回は、その時の様子をお話してみようと思います。

～～

7月18日は、夜の8時くらいから消防団に要請があり、浸水する恐れの出た施設に住んでいる皆さんのコミュニティセンターへの移送を開始しました。移送後間もなく、施設前の道路が越流し始めたため、土のうを製作し、施設への浸水対策を行いました。夜中の12時頃だと思いますが、防災無線でダムの放流をこれから行うとのことで、2時頃には水位が今より1ｍ程度上がるとの緊急放送がありました。「まだ、増えるのか！」と唖然とした事を思い出します。その時、川の中央部は大きく盛り上がり、うねりは激しく、既に土のうは役に立たなくなっていました。今思うと、夜だから川の側に居たけれど、昼間なら恐ろしくて近寄れなかっただろうと思います。その後も、我々は消防センターでの待機となり、夜通しのパトロールを行いました。夜中2時頃には水位がピークになり、八幡原橋の桁にもう少しでかかるくらいでした。その時仲間と話したのは、水位が下がり始めてから、護岸の構造物が引っ張られて崩壊するかもしれないぞ、ということでした。朝5時頃には、少しずつ明るくなってきて、改めて、増水の多さ、濁流の恐ろしさを目にしました。

朝7時頃だったと思いますが、当社の社員がパトロールで巡回し、国道184号の八幡原橋付近で踏査していた時、突然、道路路肩が崩れ出し、見る間に片車線が崩落していきました。通勤車両が混雑する中、当社の社員、他の建設業の社員、消防団員、住民、入り混じって交通整理をし、バリケード、信号機等を設置しました。まさに今すぐ対応しなければ二次災害につながってしまうという状況でした。私はすぐさま、県土整備事務所に電話して、迂回路の設置と信号機の設置についてお願いしました。現場は今その対策をやっていいのかどうかではなく、そうしなければどうにもならないという自分の判断があり、準備を進めていました。その後も対岸の護岸ブロックの倒壊、また、沿線いたるところで災害が発生し、私自身も当該地区のパトロールや応急処置に追われました。その都度、県土整備事務所、佐田支所に連絡して出来るだけ早い対応に努めましたが、いまだかつてない災害に直面した私は、果たしてその時、最もタイムリーな行動がとれていたでしょうか？過ぎていけば、風化して行くばかりの体験を見つめ直し、今後の災害対策に少しでも資すればと思い、以下、生意気ながら私見を述べさせていただきます。

国道184号　八幡原橋附近

～～～

我々出雲の建設業協会は、島根県と出雲市との間で災害協定を結んでいます。一定の降雨を越えた場合等に自主的にパトロールを実施し、状況を報告、次に各地区の幹事会員に連絡指示があり、そこから該当地区の会員に作業依頼をするというプロセスであったと思います。昨年も災害応急対策情報伝達訓練を行っていますが、はっきり言ってまったく機能しなかったと感じています。災害が目の前で見る間に起こっている状況で、指示を待つ時間的なロスは許される状況ではありませんでした。映画のセリフではないですが「**災害は会議室で起こっているんじゃない。現場で起こっているんだ！**」と言いたい気分でした。

災害協定の仕組みの中で、我々業者も幹事会員さんに連絡することも出来なかったし、役所の皆さんも幹事会員さんへ連絡することもなかったと思います。というより、役所の皆さんは、膨大な災害箇所の状況を把握しきれなかったのではないかと思います。地区幹事会員の役割については、いま一度明確にする必要があると思います。このことは、応急対策後の業務の清算にも関係してくるからです。

国道184号　八幡原橋附近

また、県土整備事務所の対応状況を振り返ると、道路維持管理業務を請負っている会員さんとの連絡が密であり、幹事会員さんを通じての連絡があったのは20日以降の比較的に落ち着いた状況であり、都市河川グループからの依頼であったと記憶しています。これも道路の担当か？河川の担当？改良区間なのかどうか？あるいは市の管轄なのか？というような事もあり、瞬時に対応することに対して、幾らかの障害があったように感じます。

我々は、今回の大災害の経験からいろいろな事を学び、改善していくことが重要だと思います。比較的小規模な災害に対しては実行可能な仕組みだと思いますが、再度、大災害に見舞われることも視野に入れ、もう一度、災害協定の仕組み全体について考えてみることが必要ではないでしょうか。それと、瞬時に対応するということを重視すれば、私は、島根県と出雲市も災害協定を結ばれたらどうかと思います。（してあれば良いのですが…）

大災害が発生した場合、県土整備事務所の皆さんが管轄の広い範囲で細やかに対応することは現実的には非常に難しいと思います。各地区に点在する支所の皆さんであれば、瞬時に災害場所や状況、そして当該地区の会員の有無も把握できると思うのです。県と市との横のネットワークを密にされたらどうかと考え、提案致します。これは国土交通省に関しても同じ事だと考えます。

最後に今回の災害で、寝ずの対応をされた役所の皆さん、消防団員、建設会社、また、その活動に快くご協力いただいた住民の皆さんに改めて敬意を払いたいと思います。

そして、各地域に根ざす建設業者が日本の国土を守る上で、なくてはならない存在であることを、私自身、改めて痛感致しました。

これからも地域の皆さんが、我々建設業者に信頼と期待を抱いていただけるように、我々は精進を続け、生き残っていかなければならないと、決意を新たにしたところであります。

『国道まるごとクリーンアップ作戦』に参加して

㈲フクシマ建設　福島　健治

毎年恒例になった「国道まるごとクリーンアップ作戦」も第９回を数えました。今年の開催は７月24日に実施されましたが、数日前に発生した7月豪雨災害の影響で開催が危ぶまれました。しかし、部会長の「何があろうと道路に対する感謝を持つことや、地域貢献の観点からも是非実施したい。同時にこの度の豪雨による道路の状況チェックも合わせて実施して欲しい。」との強い想いから実施されることになりました。当日は、ガンバロウの掛け声とともに始まった出陣式の後、国道9号線の斐川町から出雲市多伎町久村までの約30キロを、分担して半日掛けて清掃作業と点検をして歩きました。結果はかなりの量のゴミを回収しましたが、心無い運転者が依然多い事にがっかりしました。

実施区間での災害は特にありませんでしたが、今回の豪雨災害で多伎町地内の国道９号線が一時通行止めとなり、仮復旧の間、片側交互通行の期間が長く続き、島根県の大動脈が寸断され出雲市～大田間の交通に支障をきたしたことは、島根県の交通事情の脆弱さを痛感させるものでした。おりしも国では、ガソリンの料金に含まれている税金の道路特定財源を、一般財源に廻す事が議論されています。しかし、都会ならまだしも、一本しかない幹線道路が、今回の様な災害に遭うと救急車も行き来がならなくなるような、地方の幹線道路や山陰高速道の整備は、地方で生活する者にとっては生命線ともいえます。交通量が少ないから必要ないとか、交通量の多いところが優先するということより、地方はひとたび災害に遭うと迂回の幹線が無く生活に多大な支障をきたすので、全国の高速交通網がネットワークでつながるまでは、道路特定財源を地方の道路に優先的に使って、山陰高速道路と松江尾道線の早期完成をして頂きたいものです。

出雲建設会館にて出陣式

私たちの生活に欠かせない大切な国道９号線を、心無い運転者から守り、田舎にとっては必要不可欠な車社会での生活が、安心して維持できることに感謝できる「国道まるごとクリーンアップ作戦」は今後も引き続き開催され、参加者も増えるよう皆で頑張りましょう。

『しまね建設技術展2006』に参加して

㈱御船組　御船　善弘

ふわふわドーム

12月8(金)・9(土)日の二日間、出雲ドームに於いて国土交通省・島根県・出雲市等の主催による「第８回しまね建設技術展２００６」が『しまねの防災　安全な暮らしを目指して』をテーマに開催されました。各企業及び団体はおのおののブースに分かれて出展をし、また屋外では道の駅の特産品の販売も行なわれ賑やかな二日間となりました。

今回のしまね建設技術展は、同年豪雨災害が発生し改めて災害等の危機管理に注目している中での開催ということもあり、被災状況パネル展示のブースでは７月の豪雨災害の写真に見入っておられたり、また地震体験車や自然災害体験車などの特殊車輌で実際に災害の擬似体験をされたり、火災時の消化用装置の効果や威力等の説明を熱心に聞きいっておられたりと災害等危機管理に関心を持ってこられた来場者の方が多かった様に思われます。

そんな中、我々(社)島根県建設業協会出雲支部は、子供向けのブース担当ということもあり、前回同様「電子ダーツ」「ラジコンバックホウによる飴取り」「建設機械の展示」と新たに「ふわふわドーム」を加え、子供達の歓声の中各委員会ごとに分かれてイベントの賑わいを演出しました。

普段やりなれないイベントへの参加ということもあり初めは戸惑うこともありましたが、子供達の歓声のなか徐々に雰囲気にもなれ、けが人もでることなく無事に終えることができました。

今回は出雲市でも災害が発生した年でもあり、テーマにもある安全な暮らしを身近に感じながら安全への関心が非常に高い技術展ではなかったかと思います。

ラジコンバックホウによる飴取り

ここ近年建設業界は、耐震偽装問題・手抜き工事などの安全を疑われるニュースが多々聞かれます。そういった意味でも我々建設業界は、今回のテーマでもある『しまねの防災　安全な暮らしを目指して』に応えられるよう日々安全意識をもち、社会から信頼される建設業者として、そして建設人として今後も地域の発展と安全に努めていかなければならないと再認識した二日間でもありました。

『経営研修会』に参加して

中国道路整備㈱　木村　和人

青年部会主催の経営研修会が、平成18年９月22日ウェルシティ島根において、監査法人トーマツ　大倉宏治先生を講師にお招きし開催されました。この研修会に参加し、私が感じたことを拙稿ながら述べたいと思います。

私はこの業界に入りまだ日が浅いのですが、『合併』というのはこの業界においてある意味「タブー」とされてきたことは周知していました。そこへもって今回の研修会が「企業合併について」という演題であったことは衝撃的なことでした。他業界においてはよく耳にする話でしたが、この業界もここまで来たんだなという印象と同時に、我々を取り巻く環境の厳しさを改めて痛感しました。

中小企業の経営分析・業務改善を数多く手掛けておられる大倉先生のお話は、まさに生々しいものでした。『合併』と一言でいっても様々なタイプがあること、『合併』とは「１＋１が２にならない」ということ、また『合併』に必要な日数・労力など今まで聞いたことがないようなことを、実例を交え分かりやすくお話いただきました。この一時間半余りの研修会を、ある意味胸の詰まる思いで拝聴したのは私だけではなかったと思います。また、実際の他社を念頭に置き、合併・統合のシュミレートをしてしまったのも私だけではなかったと思います。

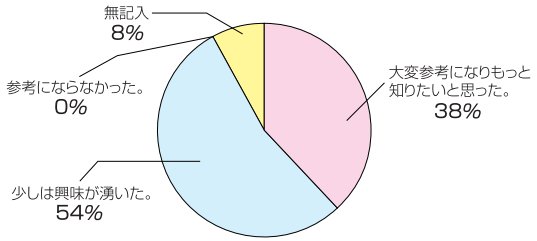
長年の公共事業削減に伴う超低迷・超逆風のなか、弊社のみならず各社生き残りをかけて様々な取組みをおこなっておられると思いますが、『合併・経営統合』を今後の事業展開における選択肢の一つとして受け入れることができたこと、またそれに正面から向き合えたことに、私は今研修会の意義を痛切に感じました。

経営研修会『企業合併について』

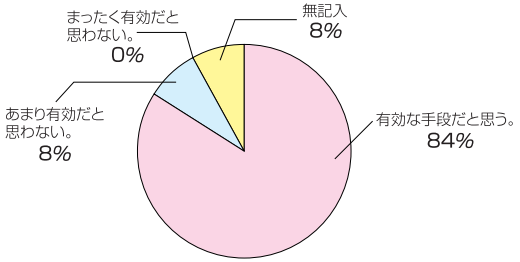
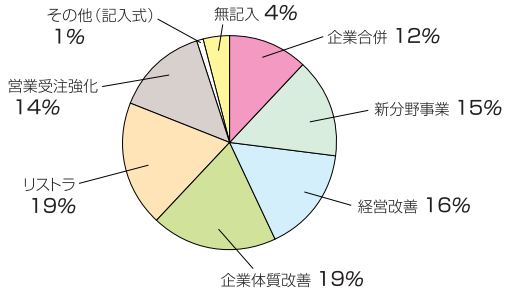
アンケート結果

2006／9.22実施

設問 1）今回の研修会に参加され、どう思われましたか?



設問 2）業界の将来において「合併」は有効な手段だと思いますか?



設問 3）今後どのような研修会をしてもらいたいですか?（複数可）